



熊谷 もも 議員

エネルギー政策

高島の強みを生かした
高島自然エネルギー基本条例を！

まずは地域新エネルギー
ビジョンを見直す

答

問 現在、市の自然エネルギー推進のビジョンはどのような方向か。

答 環境部長

環境にやさしい循環型社会づくりに向けて、地域にある資源を最大限利用しながら再生可能エネルギーの利用促進を目指してきました。



私は単に「地球温暖化」に配慮し「原発に頼らない」「再生可能エネルギー」を推進するだけにとどまらず、例えば、森林の面積が72%を占める高島市なら

ではの強みを活かし、高島の自然エネルギー資源を活かしきり、そして、生活環境、里山の景観保全をしながら、高島ブランドの強化、雇用につなげ、高島市内経済を活性化するような「高島自然エネルギー」の利用推進につなげていくべきだと考える。

問

高島は日本海性気候で雪深く、冬場の「熱」利用はとても大きく市民の生活に必要なものではないかと非常に重要なものがある。

答 環境部長

熱は熱としてそのまま利用することが一番効率がよい。高島の気候特性を鑑みて、自然エネルギーの利用推進に際し、発電に偏らず、自然エネルギーの熱利用を最も推進するべきでは。

熱利用の推進はもとより、市内に存在する様々な資源を活用したバランスのとれた再生可能エネルギーの推進を図ります。

問

まずは、バイオマス利用としての「薪ストーブ利用、県内一番！」を目指しては↓地域生活環境、里山の保全と同時に高島ブランドの強化↓市内経済の循環と発展を！

答 環境部長

引き続き研究します。

問

豊かな自然環境に恵まれた高島の環境を最大限活用、アピールし、高島の自然エネルギーの利用を促進することに特化した条例「高島自然エネルギー基本条例（仮称）」を制定しては。

発電設備の設置に際し、地域の自然景観や生活環境との調和を条例で定めては。

「地域自然エネルギーは地域固有の資源である」と条例で宣言しては。

答 市長

条例には、市や民間事業者や市民の役割が定められます。条例とする以上は、それぞれの理解と協力をいただかなくてはなりません。よって、条例ありきの議論はいささか課題があります。

まずは、市内の再生可能エネルギーの実態と将来の可能性、そして市と再生可能エネルギーとの関わりを取り組みがどうあるべきかを検討させていただき、既存の自然エネルギービジョンの見直しを行い、その中で条例制定の必要性や既存の環境条例の見直しも視野に入れていきます。

高島市内にはエネルギーを十分自給できるだけの、他市が真似したくてもできない豊かで大きなポテンシャルがあります。高島の豊かで明るい未来を高島の自然エネルギーで切り開いていきましょう！